

本事業に取り組むエリア(自治体名)	兵庫県西宮市	
本事業の実施主体	訪問看護ステーションネットワーク西宮	
本事業に参画する団体名	訪問看護ステーションネットワーク西宮	
地域の状況	①人口	483,650人(2023.3.1)
	②地域の特徴	西宮市は大阪と神戸の中間に位置する中核都市で六甲山系側と瀬戸内海側でハザードが大きく異なる。1995年阪神淡路大震災被災地域だが、当時は訪問看護ステーションは市内3事業所のみだった。2002年に発足した、西宮市の訪問看護協議体である、訪問看護ステーションネットワーク西宮は、現在市内約60事業所中43事業所が加入している。2012年西宮市の防災担当課の支援を受けて「防災研修キット」研修が行われ、全国訪問看護事業協会出版の「訪問看護ステーションの災害対策」にその内容やエッセンスが盛り込まれている。
	③災害等の歴史	1995年阪神淡路大震災 台風・大雪による事業縮小、中断 洪水による市内主要道路やアンダーパスの浸水 復旧に数日要する大規模停電
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	訪問看護ステーションネットワーク西宮は、市内各関連他職種に連携を呼びかけ、行政の重要会議体への参画メンバーに入れてもらえるよう働きかけてきた経緯がある。現在、「西宮市在宅医療・介護連携推進協議会(メディカルケアネット西宮)」に参画し、コロナ禍前は、市内の病院などあらゆる場で働く看護職の連携を考える交流会を年1回開催するなどの活動をしてきた。
	⑤その他特記事項	訪問看護ステーションネットワーク西宮では、この他にも、市民向けの「看取りのシンポジウム」や、市民祭りへ出店なども実施している。
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	阪神淡路大震災の被災経験は現場で語り継がれているものの、「在宅医療・介護」の観点での知見が少ない印象である。また、10年単位での水害経験、100年に1度は氾濫が想定される河川があり、洪水高潮それに伴う土砂崩れのハザードへの準備も必要だ。新型コロナウイルス感染症対応においては、西宮市保健所より「西宮市自宅療養における健康観察業務」を受託し、市内約10事業所が対応した。
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	「訪問看護ステーションネットワーク西宮」として質の向上と訪問看護の啓発のための活動が活発であり、また機関型BCP策定についてネットワーク内で「教え合う」風土づくりを試みてきた。この強みを自事業所で解決できないBCPに活かしたいと考えた。
	③わが地域のBCP観点からの課題	災害要援護者の安否確認や避難所運営など、行政との協議や協定が未策定であり、情報共有ツールについてもICT連携ツールが「決められない」または「使いこなせない」という地域医療介護事業所のITリテラシーの課題がある。
	④その他特記事項	2022年度は、山岸先生のサポートのもと、市内訪問看護事業所のBCP策定を様々な単位で進めた。また、各事業所においては蓄電器購入を勧めつつ、市内5圏域の手上げステーションに発電機を1台ずつ購入した。また、利用者安否確認のためのICTツール活用の可能性について検討してきた。
取り組み内容と目標	今年度のプラン	<ul style="list-style-type: none"> 1) バイタルリンクを利用した人工呼吸器利用者の24時間安否確認システムの稼働 ・平時に利用しているICTツールを有事対応もできるツールへ改良を検討する。 2) 市内5圏域に整備した発電機の運用マニュアル作成と訓練実施 ・発電機は整備できたので、担当チームが有事に使える簡易マニュアルと、平時に使える詳細マニュアル動画を整備する。 3) 市内訪問看護事業所のBCP策定支援と研修・訓練実施 ・ネットワーク内BCPメンバーが、未策定施設への研修、訓練とブラッシュアップを実施していく。 4) 有事の訪問看護事業所の一時的な利用者・職員のフォローによる連携協定スキーム作成 ・西宮の実情に沿った連携協定を作っていきたい。